

市指定有形文化財(宇藤木橋)

弥生大字尺間宇藤木には石造アーチの宇藤木橋があります。明治30年の建設、石工は高木麻五郎(臼杵市野津町落合出身)で独特の石積法により組まれています。上流左側は少し損傷が認められますが、建設年代・石工名がはっきりしている貴重な文化財と言えます。ぜひ一度足をお運びください。



石造アーチの宇藤木橋

佐伯市は、海・山などの豊かな自然と向き合いながら暮らしの向上を図り、特色ある地域の歴史・文化を生み出してきました。また、平成17年の市町村合併までに、各自治体では過去からのかけがえのない宝物である歴史資料を活用して、市町村史誌を刊行し佐伯市域にきた人々の姿を明らかにしてきました。その後、合併した佐伯市は新しい歴史を刻むとともに、過去についても多くの新しい発見があり、佐伯市の歴史・文化や今の様子を



編集委員長 佐藤晃洋氏

佐伯市史編さんによせて

もつと豊かに語り直すことができようになりました。一方で、当たり前のように感じていた地域の姿が徐々に変貌し、生活も変わってきました。それに伴い、残されてきた記録や伝えられてきた記憶が消えてしまいかねない状況が増えてきています。新たに始まった『佐伯市史』編さんでは、市民の皆様の御支援、御協力をいただきつつ、佐伯市域に残されてきた記録や伝えられてきた記憶を掘り起こし、再確認しながら、佐伯市の歴史・文化を再発見し、未来につないでいくことをめざしています。

事務局・執筆者全員で、市民の皆様が親しみやすい『佐伯市史』の編さんに取り組んでいきます。今後とも、一層の御支援、御協力をお願いいたします。
(佐藤晃洋氏・竹田市歴史文化館「由学館」館長)

市史編さんだより

《発行》

佐伯市教育委員会

社会教育課

市史編さん係

《電話 22-4095》

2020年(令和2年)

【第3号】

スペイン風邪とコロナウィルス

スペイン風邪は、1918年〜1920年(大正7〜9年)に大流行した新型インフルエンザです。世界で4千万人以上が亡くなったと言われます。大分県では、約7千人が死亡しましたが、実際には1万人近く亡くなったと思われます。スペイン風邪と言いますが、発生源はアメリカです。当時は第1次世界大戦の最中で、中立国だったスペインの様子が世界中で報道されてこの名前になりました。

大分県では西大分の大分港付近が発生源で(10月下旬頃)、沿岸部から山間地へ感染が広がりました。お

ありがとう ★ 佐伯文化会館



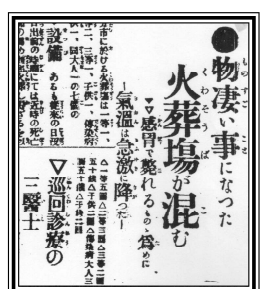
佐伯文化会館開館当時のすがた

昭和46年11月、三の丸に建設された佐伯文化会館は今年10月31日をもって閉館いたします。東京都祥建(佐伯出身の清田文永氏)の設計、大分市佐藤組の施工により約1年を費やして完成しました。当時、佐伯市民はもとより南海部郡の人々から

【こどもミュージカル初演】
～百年の森 僕らと城山～

も親しまれ、文化芸術の拠点としてなくてはならないものでした。振り返ると、国民文化祭のフィナーレを飾ったこどもミュージカルの上演などの数々の感動的なシーンがこのステージから生まれてきました。

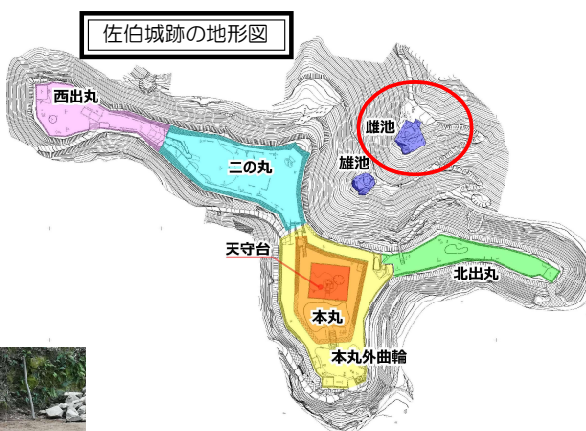
現在のコロナ危機と同様、当時はワクチンも特效薬もありませんでした。国や県が呼びかけた対処法は、芝居など人が集まることを制限するなどです。今とよく似ています。(市史編さん近代部会長 長野浩典氏寄稿)



当時の『大分新聞』

佐伯城雌池の復旧と発見された出土品

佐伯城の取水施設として築かれた雌池は、平成28年9月の台風により背後の斜面が崩落し埋没しました。重要な遺構である雌池を復旧するため、市では慎重に調査、検討を重ね、崩れた石垣と池の修復を終えました。現在では池の水位も順調に増えてきています。作業中には鯰(シヤチ)瓦の破片など、佐伯城の姿を伝える貴重な資料が出土しました。なお、通行止めとなっている若宮の道もまもなく復旧作業を終え、10月1日から通行できる予定です。これからも、佐伯城跡周辺の自然と歴史をお楽しみください。



土砂で埋没した雌池



復旧を終えた雌池



出土した鯰瓦の破片(現在調査中)